

## 道徳の授業展開及び評価について

1	道徳教育における児童生徒の理解と評価の意義	2
2	道徳性の理解と評価	2
3	授業構想のポイント	6
4	学習指導過程の創意工夫	
(1)	導入の工夫	8
(2)	展開の工夫	9
(3)	終末の工夫	11
5	話し合いを深める手立て	12

## 道徳教育における児童生徒の理解と評価の意義

道徳教育における評価は、教師が児童生徒の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し、勇気づけるはたらきをもつものであるといえる。

児童生徒の道徳性については、一人一人の児童生徒が道徳教育の目標や内容を窓口として、どの程度成長したかを明らかにするように努めることが大切である。それは、客観的な理解の対象とされるものではなく、教師と児童生徒の温かな人格的な触れ合いやカウンセリング・マインドに基づいて、共感的に理解されるべきものである。また、道徳性は、人格の全体にかかわるものであり、数値などによって不用意に評価してはならない。

教師は、児童生徒の道徳性の実態を把握し、その結果を踏まえて指導の計画や方法を練る必要がある。指導の前後における児童生徒の心の動きの変容などを様々な方法でとらえ、それによって自らの指導を評価するとともに、指導方法などの改善に努めることが大切である。

## 道徳性の理解と評価

### I 道徳性の理解と評価

#### 1 理解と評価の観点と方法

##### (1) 児童生徒との心の触れ合いを基盤に

道徳性の理解は、教師と児童生徒の心の触れ合いの中でなされる共感的理解によるべきである。様々な道徳性の理解や評価の方法も、共感的な理解を豊かなものにするための基礎資料として位置付けられる。

##### (2) 共感的理解と評価の方法

道徳性を理解し評価するための方法には多様なものがあるが、学校生活における教師と児童生徒の心の触れ合いを通して、児童生徒の道徳性を共感的に理解し評価するものでなければならない。

##### ① 観察による方法

児童生徒の自然のままを観察し、記録する方法である。観察で得られたものから外に現れた行動や、態度の背景にある児童生徒の気持ちを理解することが大切である。

ア ある時間や場面などに一定の枠を設け、観察の視点を決めて、記録用のチェックリストなどを用意して、組織的、計画的、継続的に観察を行う方法。

イ 休み時間や給食の時間などにおける対話や、教科の学習における何気ない発言や動きなどからまとめる方法。

ウ 一緒に活動しながら、気づいたことをまとめる方法。

エ 授業中に意図的に指名したり、休み時間等に意図的に話しかけながら様子を見る方法。

##### ② 面接による方法

直接に児童生徒と対して話し合うことで、児童生徒の道徳的な感じ方や考え方などを評価しようとする方法である。

児童生徒との人間関係が深まれば、児童生徒の話すことの内容や話し方、表情か

らも道徳的心情，道徳的判断力，道徳的実践意欲や態度などの内面をかなり理解できるようになる。

そのためには，カウンセリング・マインドをはじめ，面接の心構えや技法の習得に努める必要がある。

### ③ 質問紙などによる方法

教師があらかじめ作成した質問に回答してもらうことによって，必要な情報を収集するものである。

ア 道徳性に関する児童の自己評価を知る上で有効である。

イ 生徒児童の自己理解を深めることにも役立つ。

ウ 指導の前後に行えば児童生徒の自己評価の変容を知ることができ，教師の指導改善のデータにもなる。

これらは，児童生徒を取り巻く環境や学校生活の様子，教師との人間関係などによって大きく左右される。あくまで，児童生徒を共感的に理解していく上での一資料として扱うべきものである。

\* 頻繁に質問紙法を行い，対応をおろそかにしていると，教師と児童生徒との人間関係を損なうこともあることに注意する必要がある。

### ④ 作文や日記，ノート，ワークシートなどによる方法

ア 作文や日記などに書かれている内容から直ちに道徳的な評価するのではなく，行間に込められた思いを共感的に理解する姿勢が大切である。

イ ワークシートを様々に工夫することによって，児童生徒の心の動きを知ることができ，児童生徒自身も学習での気付きや自己理解・自己評価，他者理解（相互に交換することによって）等を深めることができる。

ウ 作文やノート，ワークシートに，共感的・受容的なコメントを加えて返却することは，教師と児童生徒の心の触れ合いを深め，児童生徒のよりよく生きる意欲を喚起することにもなる。

### ⑤ その他の方法

ア 事例研究法によって問題とされる事例の特徴とその形成過程について吟味することは，特に配慮を要する児童生徒の理解と指導に有効である。

イ 各種のテストを用いる場合は，その目的や注意事項をよく理解して使用する必要がある。

## (3) 理解と評価の創意工夫と留意点

① 児童生徒との心の触れ合いを通して得られる共感的理解を基盤とし，広い視野から継続的・総合的に理解し評価することが大切である。

② 道徳教育の効果は，比較的是っきりと表れるものと，短期間には多くは期待できないものがある。したがって，指導後に見られる児童生徒の心の動きの変容などを的確にとらえる方法と，根気よく長い目で児童生徒の変容を観察する方法とを併用する必要がある。

③ 特に指導を要する児童生徒に気付けば，直ちに適切な指導を行わなければならない。その場合，学級全体に対する指導と同時に，個別に相談的な指導を行う必要がある。経験豊かな教師やスクールカウンセラー等の専門家の助言を求めたり，とき

には学年や学校全体で取り組むようにすることも大切である。

- ④ 児童生徒の生活を知るための資料として、ア社会などの環境との関連、イ家庭での生活態度、ウ両親の養育態度なども考えられる。
- ⑤ 児童生徒理解の観点を固定的に考えず、児童生徒のよさや個性を積極的に認めていくことができる多面的な理解と評価が求められる。
- ⑥ 児童生徒の自己理解を深めるためのフィードバックや、次の指導に生かすための工夫が必要となる。

なお、これらは児童生徒のプライバシーにかかわるものを含んでおり、資料の収集の仕方及びその結果や、収集した資料の扱い方などについては、特に慎重でなくてはならない。

#### (4) 道徳の時間における評価の構え

- ① 子どもの誰もがよりよく生きたいと思い、そのような力をもっている。そのような成長を信じる姿勢で評価する。
- ② 教師が共感的理解の姿勢をもって評価する。
- ③ 子どものよい点や可能性などを積極的に評価する。
- ④ 子どもによる自己評価を効果的に生かす。

#### (5) 道徳の時間にかかわる主な評価の断面

①事前の実態把握	→ ・ 主題の構想に生かす ・ 資料の選定や指導の手だてに生かす	日常観察，作文 調査 聞き取り等
②授業時の学習過程での状況の見取り	→ ・ その場での個別指導等に生かす ・ 次の学習過程での指導に生かす	学習の様子 発言や記述，表現等
③授業終了時の子どもの変化等の見届け	→ ・ 子ども一人一人の実態把握を深める ・ 子どもの日常指導に生かす ・ 学級全体の傾向を知り経営に生かす	学習の様子 発言や記述，表現等 事後アンケート等
④一定期間にわたる変化等の見届け	→ ・ 子どもの自己を見る目の変化を捉えて個別指導等に生かす	記録や記述の積み重ね 等

#### (6) 指導に生かす評価の実例（例）

##### ① 事前の実態把握としての評価（実態を捉える観点）

教師のもつ情報を動員し、方法を駆使して把握し、それを指導に生かす。

- ・ 主題にかかわってどんな体験があるか。
- ・ 同じ内容項目をねらいとする事前の授業での様子はどうか。
- ・ 子ども自身が自分の感じ方・考え方，行為の現状をどう見ているか。
- ・ 子どもの人間関係の中でどんな様子が見られるか。

**例：第6学年「本当の自由とは」の学習に際しての質問紙**

■あなたは「自由」についてどのように考えますか。

◎「自由」とは・・・

◎そう考えるわけは・・・

-----

**② 学習過程での評価**

一人一人の考えが子どもの真剣な生き方の反映であり、評価の視点は、子どもの考えを一方向に収束させるさせるものではなく、多様な受け止めや考えが引き出されることを主眼としていることを押さえておきたい。

**③ 授業終了時に行う評価**

授業終了時には、これまでの評価の積み重ねの上に立って、授業全体を通しての評価を進める。例えば、教師が「期待する姿」として示した観点について、子ども一人一人がどうであったかについて個別的、記述的な評価や指導メモを積み重ねていくなどする。ここでも、継続的に実施できる方法を生み出していくことが大切である。

また、子どもの自己評価を得て、それらを生かすという方法も考えられる。子どもの学習への満足感がどれだけ得られたかが分かり、貴重な評価資料が得られる。

**道徳の時間についての子どもの自己評価（例）**

●今日の道徳の時間の学習は・・・ ◎—○—△

	時間を気にしないで集中して取り組みましたか。
	資料に出て来る人の立場にたって考えられましたか。
	感じたことや考えたことを発表したいと思いましたか。
	友達の考えが自分の考えを深めるのに役立ちましたか。
	本当の自由について、自分の考えを友達に説明できそうですか。 (↑この項目は授業ごとに変わる)
授業の中で 感じたこと 考えたこと	

これらの評価を積み重ねていくことによって、長期にわたる評価も可能になる。道徳の時間の指導は、本来、計画的、発展的な指導という特色がある。実際に、その積み重ねによって、子どもの自己評価の傾向に一定の変化が生じたり、子どもが書く学習シートの内容に深まりが見られるようになるなどの変容が見られることも多い。

## 授業構想のポイント

### I ねらいを検討する。

年間指導計画に示されている主題名とねらいを確認し、指導の内容や教師の指導意図を明らかにする。

### II 指導の要点を明確にする。

ねらいに関する児童生徒の実態，それを踏まえた教師の願いを明らかにし，各教科，特別活動及び総合的な学習の時間，外国語活動における指導との関連を検討して，指導の要点を明確にする。

### III 資料を吟味する。－「読み物資料」を使った場合－

#### 〈授業構成の手順の一例〉

- 1 資料を読む。(特に副詞や副詞句的な言葉に注意しながら読む。)
  - ・どのような道徳的価値が含まれているか。
  - ・児童生徒の実態に適合しているか。
  - ・児童生徒の学習意欲を引き出すことができるか。
  - ・授業に深まりと広がりをもたせることが可能かどうかなどの観点から検討を加える。
- 2 「主題」，「ねらい」を考える。
  - ・主題名→学年段階・学校段階の内容項目から，道徳的価値を含む内容を短い言葉で表す。
  - ・ねらい→この時間に何をねらうのか，具体性をもたせる。
- 3 授業で取り上げる場面の数を考える。
- 4 中心の場面を決定する。
- 5 中心発問を決める。
- 6 中心発問に対する子どもの考え（答え・反応）を予測する。
- 7 3であげた場面のうち特に大切なものを取り上げる。
- 8 各場面の押さえを明確にする。

#### 〈資料分析の手順の一例〉

- 1 繰り返し読んでみて，話の筋に従って場面ごとに区切る。
- 2 登場人物の言動を整理する。いつ，どこで，なにを。
- 3 その言動を生み出している気持ちや考えを明らかにし，整理する。
- 4 考えや気持ちはどのような道徳的価値（反価値）に支えられているかを検討する。
- 5 資料の構造的理解の為に，資料の場面や含まれる価値を相互に関連させて考える。
- 6 資料に含まれている，「ねらい」と直接関係する価値以外のものについて整理しておく。

#### **Ⅳ 全体の展開を考える。**

- 1 ねらい，児童生徒の実態，資料の内容などから，授業の流れの中心となる展開の段階について考え，生徒の感じ方，考え方を一層深めるためにはどのように指導したらよいかを検討する。
- 2 その展開のための導入，終末はどうあったらよいかを考える。
- 3 児童生徒の心に響く道徳授業を工夫するために，体験活動や日常生活の具体的事柄をどのように活用するか検討する。
- 4 学級の実態，指導者の意図，資料の内容，他の教育活動等との関連などに応じて柔軟に発想することによって，次のような学習活動を構想することができる。
  - ① 多様な読み物資料による学習指導
    - ・詩，長文の物語や伝記，戯曲，実話，論説文，インターネットによる資料等
  - ② 体験活動を生かすなどの学習指導
    - ・日常の生活や学校の全教育活動の中での様々な体験
  - ③ ボランティア活動，自然体験活動などの体験など
  - ④ 各教科等との関連をもたせた学習指導
    - 各教科等における学習と道徳の時間の指導のねらいが同じ方向をもつものである場合，学習の時期や教材を考慮したり，相互に関連をもたせた指導を進める。
  - ⑤ その他の学習指導
    - ・複数時間扱いの学習指導
    - ・学級経営と関連をもたせた学習指導
    - ・家庭や地域社会との関連を図った学習指導
    - ・図書館や博物館等を利用した発展的な学習指導

#### **Ⅴ 一人一人を生かす方法を考える。**

- 1 一人一人を様々な表現方法を検討する。
- 2 グループでの活動や話し合いの方法を検討する。
- 3 意図的指名を検討する。

#### **Ⅵ 板書計画を立てる。**

ねらいにかかわって，

- ・指導の意図や資料の内容の整理
  - ・児童生徒の感じ方や考え方の整理
- などを視覚的にするために，板書を有効に使用することを検討する。  
そして，学習指導過程との関連をもたせて計画を立てる。

#### **Ⅶ 事前指導，事後指導について考える。**

- 1 豊かな体験活動や日常的な指導，各教科等での指導との関連を検討する。
- 2 事前の実態把握や事後の個別的な指導を検討する。
- 3 家庭や地域社会との連携を検討する。
- 4 重点的に取り上げる内容や複数時間を計画的に関連をもたせて指導する場合は，全体的な指導の構想との関連を確認しながら，効果的な指導を工夫する。

## 学習指導過程の創意工夫

道徳の時間の学習指導過程とは、児童生徒自らが望ましい人間としての生き方を追求し、道徳的価値についての見方や感じ方、考え方を深めていく過程を明らかにするものである。

したがって、学習指導過程の構成にあたっては、学級の児童生徒の生活の実態や道徳的価値の実現に対する意識の傾向に目を向け、ねらいについて、児童生徒がどのような見方や感じ方、考え方をしているのかを十分把握することが大切である。

一般的に、導入、展開、終末の各段階を設定することを基本とするが、いたずらに固定化したり形式化することなく、それぞれの学級の実態、指導の内容や意図、資料の特質、他の教育活動との関連などに応じて弾力的に扱うなどの各段階での多様な工夫をすることが大切である。

### 1 導入の工夫

主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、児童生徒一人一人の意識をねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機づけを図る段階である。

- ア 場面絵や写真、調査の結果などを提示する。
- イ 生活体験を想起させて発表させる。
- ウ アンケート調査の結果等の資料を提示する。
- エ 資料に関する絵画や写真、VTRや小道具などを見せて視覚的に印象づける。
- オ 録音テープの声や音楽CDなどを使って聴覚的に印象づける。
- カ 主題のねらいにかかわる新聞記事、児童生徒の作文、詩や短歌などを活用する。
- キ 地域の人材を活用する。
- ク 実験や観察など実物に触れる体験などを取り入れる。

## 2 展開の工夫

主題のねらいを達成するための中心となる段階であり，中心的な資料によって，児童生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値について自覚を深める段階である。

### (1) 資料活用の工夫による多様な授業展開

ア 読み物資料は教師の読み聞かせが一般的な方法であるが，スライドや絵，紙芝居等にして提示したり，実物や写真，映像，効果音などを併用する。

イ 児童生徒の実態に応じて繰り返し，あるいは部分的に見せたり聞かせたりする。

ウ OHPシート，VTR，CD-ROM等として提示したり，素材を録音による資料に構成して聞かせたりする。

エ 体験そのものや児童生徒の作品を資料として活用したりする。

オ 黒板を効果的に活用して，視覚に訴えながら資料の世界を膨らませたりする。

カ パネルシアターや影絵，人形，ペープサート等を使うことも効果的である。

### (2) 発問構成の工夫

発問は教師により十分検討され，意図的，計画的に学習指導過程の中に位置付けなければならない。

ア 生徒の実態と資料の特質を押さえた発問構成の工夫をする。

- ・子どもの意識の流れや疑問を予想した発問
- ・個性的な考えが引き出される発問
- ・心が揺さぶられる発問

① 中心的な発問や中心課題となる発問を考える。

② ①を生かすためにその前後の発問を考える。

イ 資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止め，深く自己を見つめることができるようにする。

- ・日常の具体的な事柄を話題にする。
- ・児童生徒が体験を通じて感じたことや考えたことを話題にする。

### (3) 児童生徒が思考を深める工夫

#### ア 表現の工夫

- ・学習シートや手紙形式や漫画の吹き出し形式にして書く工夫
- ・児童に特定の役割を与えて即興的に演技する工夫
- ・動きやせりふの真似をして理解を深める動作化や劇化の工夫
- ・音や色，線，表情などで自分の考えを表現する工夫

※ 実際の場面の追体験，実験や観察，調査等による表現物を伴った学習活動も実感的な理解につながり，効果的である。

※ 低学年では，児童が人形やペープサートなどを手に持って演ずることも効果的である。

#### イ 話合いの工夫

児童生徒の相互の考えを深める中心的な学習活動である。

- ・意見を出し合う，まとめる，比較する，決めるなどの目的に応じて効果的に話合いが行われる工夫
- ・座席の配置の工夫
- ・グループやペアによる話合いの場の工夫
- ・名前札の活用
- ・座席の移動などによる一人一人の立場を明確にした話合いの工夫

#### ウ 振り返りの場の工夫

児童生徒自らが考えを深めたり，友達や教師，保護者と意見交換をしたり，今までの学習を振り返ってみたり，その都度気付いたことや調べたことなどをメモしたりできる場を設定することによって，児童生徒の道徳学習を継続的に深めていくことができる。

また，心の成長の記録としても，活用することができる。

### 3 終末の工夫

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後の発展につなぐ段階である。

#### (1) 児童生徒の考えをまとめたり温めたりする。

ア 児童生徒の感想を発表させたり、書く活動を取り入れたりする。

- ・自分の気持ち、考えと正面から向き合うために書く。
- ・自分の考えをより深めるために書く。
- ・より深く葛藤するために書く。
- ・様々な考えに気づくために書く。

(例) ふきだし、ワークシート、短冊など

イ 教師が説話をする。

ねらいの根底にある道徳的価値を一層主体的に考えられるようにしようとするものである。教師の人間性がにじみ出る説話は、児童生徒の心情に訴え、深い感銘を与えることができる。また、教師が自らを語ることによって、児童生徒との信頼関係を深めることもできる。

- ・教師の体験談や願い
- ・児童生徒の日常生活における身近な話題
- ・児童生徒の関心や視野を広げる時事問題
- ・ことわざや格言、心に残る標語
- ・地域の自然や伝統文化に関すること

\* 児童生徒への叱責、訓戒や行為の押し付けにならないように注意する必要がある。

ウ 補助的な資料を提示したり、児童生徒の考えを整理する。

#### (2) 各教科等との関連を図り、今後の発展につなぐ工夫をする。

## 話し合いを深める手立て

### ダイアログ活動

展開前段の中心資料において、主人公に共感した心情を整理した後、自分と同じ考えを持つ友達と意見交換をする。

自分と同じ価値観の友達を探し出すことで、友達の新しい面を新たに発見できたり、その中で話し合いを深めることができる。さらに価値観を児童相互で補充・深化することになる。

そして、「なぜ、こういう気持ちになったのか」「同じ考えだけど、そこに至るまでにどんな考えがあったのか」などの友達の違った考え方から新たな気付きがある。特に他者理解、人間理解が深まる。

### 対話法

平成7年度に文部大臣賞を受賞した岐阜市立加納小学校の「道徳的実践力を育てる年間指導計画 道徳編」では、研究の実践から開発された「対話法」について次のように述べている。「多様な感じ方や考え方を引き出す段階で、2・3人の対話を聞いて自分の感じ方や考え方を進んで話す。2・3人の対話を聞いて自分の感じ方や考え方と比べながら話し始める。」これらを中心発問の段階で活用し、ワークシートに考えを整理した後、違った考え方をもつ児童をパネラーとして登場させ、それぞれの気持ちを言葉にする。周囲の児童もそのやりとりから感じたことや自分の考えを発表し合う。このような活動を通して児童の他者理解、自己理解を深めるようにする。

### パートナーインタビュー

法政大学教授の渡辺弥生氏の提言である。渡辺氏は、「幼児期から青年期までの役割取得能力（思いやり）の発達を促す道徳教育実践モデルの展開」において、「ある場面での登場人物の気持ちや行動についての理由などをインタビュー形式で聞き、応える。」と述べている。この方法を用いることによって児童の価値理解がさらに深められ、インタビューの役割交代をすることで他者理解にもつながっていくと考えられる。

### 子どもの心をゆさぶる発問を工夫する

教師は、子どもの実態をよく把握し、実態に合わせて柔軟に発問を工夫するようにする。人間のもつ強さや弱さ、長所や短所を共感的に捉え、多様な価値を引き出し、よりよく生きる力をつけられるよう、発問を組み立てていくことが大切である。

### 子どもの表現活動を通して、話し合いをさらに深める

#### **【役割演技】**

役割演技は、資料中の登場人物になったつもりになって演技することによって、共感したり、自他の理解を深めたりする指導の方法である。

役割演技の仕方としては、

- ① 隣同士でやる。
- ② 教師と子どもでやり、それをみんなが見る。
- ③ 子ども同士で自由に演技し、教師が支援し、それをみんなが見る。

\* 役割演技は、演技者だけが演じて、他のみんなはただ見ているだけというのではなく、見る側の参加の仕方を配慮することが大切である。役割演技のあと、演じたときの気持ちをたずねたりすることも効果的である。

**【書く活動】**

- ・自分の気持ち，考えと正面から向き合い，はっきりさせるために書く。
  - ・自分に考えをより深めるために書く。
  - ・より深く葛藤するために書く。
  - ・主人公により深く共感するために書く。
  - ・さまざまな考えに気づくために書く。
- (例) ふきだし，ワークシート，短冊など